

July / August
2022 No.18

A Newsletter from SCGO-JSOG Project
on Women's Health and Cervical Cancer

カンボジア 女性のヘルスプロモーションを通じた 包括的子宮頸がんサービスの 質の改善プロジェクト

JICA 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)

PROJECT FOR IMPROVING THE QUALITY OF
COMPREHENSIVE SERVICES FOR CERVICAL CANCER

2年半振りの現地派遣

この2年半、カウンターパートであるカンボジア産婦人科学会を遠隔で支援してきましたが、現地の新型コロナが収まってきたため、7月下旬～8月中旬にかけて日本人専門家が現地で活動を行いました。健康教育プログラムの実施と評価のための準備、子宮頸がん検診実施準備、関係者との情報交換を行いました。



SCGO 理事らと今後のプロジェクトのスケジュール詳細と予算を協議し、効果的、効率的に実施する方法を検討し、業務フローを修正した



プノンペン州教育局との協議の様子



プノンペン郊外の小学校に向かう道路
全てが工事中で、結局辿り着けないと
いうハプニングもあった

「自分たちで何とかする」という発言から見える関係性

JICA 沖縄特別嘱託/琉球大学医学部保健学科客員研究員
竹内理恵

この度「女性のヘルスプロモーションを通じた包括的子宮頸がんサービスの質の改善プロジェクト」に参加する機会をいただき、2022年7月24日より8月6日までの2週間、カンボジアに出張させていただきました。新型コロナウイルス感染症パンデミックにより、海外出張もままならない時期を過ごし、約2年半ぶりの海外での活動、さらに初めましてのチームに参加ということで、当初不安もありましたが、一緒に活動して下さった皆様のおかげで、非常に心強くスムーズに活動を進めることができました。

プロジェクトの活動の一つである「プノンペン市内の小学校に勤務する女性教員に対する健康教育」の効果をどのように評価するか、具体的方法とスケジュールの決定というのが今回の主な業務であり、この評価活動をいかにプロジェクト活動の妨げにならないようにするか、ターゲットグループである女性教員に対して直接的なベネフィットがないように感じられる評価活動を教育省側が受け入れてくれるかどうかということが課題でした。健康教育の評価に関して、カンボジア産婦人科学会(SCGO)のKanal 理事長や健康教育実施・評価担当のSoeung 理事、事務局のNarenさん、Vateyさんとは渡航前にオンラインで何度か打合せを行い、評価の必要性に関してははっきりとした共通理解を得ていましたが、評価方法やスケジュールに関しては大筋での合意は得られていたものの、詳細については進んでは後退、進んでは後退といった具合で、なかなか「よし、これで行こう!」というようにはすすきり進んでいませんでした。ところが、現地を訪問し、対面で打ち合わせをしたところ、あっという間に話し合いは進み、これまでお互いに引っかかっていた部分が明確になり、シンプルでわかりやすい健康教育評価のスケジュールが組みあがりました。コロナ禍でリモート会議などオンラインでの活動が増え、それなりに対応してきたつもりでしたが、やはり、現地に赴き、直接人と会って話をする、自分の目で現地の状況を見て確かめるということがいかに重要であるかを実感しました。SCGOの先生方のおかげで、プノンペン教育局の了承も得られ、あとは活動開始を待つばかりです。

滞在中、現地の小学校を訪問する機会もいただき、市街地の小学校では分別用のごみ箱が設置されていたり、飲用水専用の蛇口があったりと、ほぼアフリカの小学校しか知らない私にとっては驚くことばかりでしたが、郊外の小学校訪問時に、学校に通じるすべての道路が工事のため封鎖されていて、最終的に学校にたどり着けなかったのは「これぞ途上国」を実感させてもらえて、楽しい思い出の一つになりました。

今回の活動で一番心に残っているのは、SCGOの方々の「自分たちで何とかする」という姿勢です。活動予算に関する話し合いの中で、「その予算は我々で何とかしよう」という言葉を何度も聞きました。これまでの私の途上国での活動経験の中で、カウンターパート側からこの言葉が発せられたことは一度もありません。これはひとえに、日本産科婦人科学会の長期にわたる適切な支援と、その支援に応じてさらに高めようとするカンボジア産婦人科学会の姿勢、両者のequal partnershipの賜物なのだと感じました。これからもこの素晴らしい関係を継続していただきたいと思います。

このような素晴らしい体験をさせていただく機会をいただき、日本産科婦人科学会およびお世話になりましたすべての関係者の皆様に、この場を借りて心より御礼申し上げます。



小学校訪問の様子



小学校の校長先生達との協議の様子

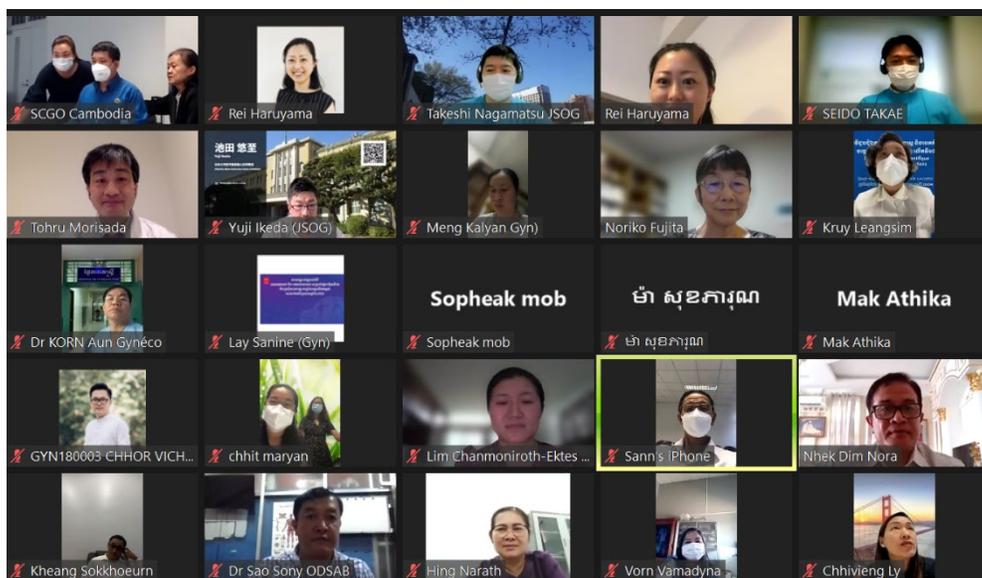
産婦人科診療ガイドライン<婦人科外来編>レクチャー企画 第2回セッションを開催しました

本事業計画における活動2-5「カンボジア産科婦人科学会(SCGO)のトレーナー能力強化」を目的として、日本産科婦人科学会の産婦人科診療ガイドライン<婦人科外来編2020>のクリニカルクエストに沿ったレクチャー企画を、幹事医師メンバーが実施しています。8月27日、第2回セッションが「卵巣内膜症性嚢胞の治療」(CQ217)をテーマに開催され、池田悠至先生(日本大学医学部附属板橋病院)、森定徹先生(杏林大学)、高江正道先生(聖マリアンナ医科大学)、永松健先生(東京大学)が講師としてご登壇下さいました。SCGO側からは産婦人科診療の継続教育に携わる国立・州立病院医師約50名の参加があり、2時間にわたる活発なディスカッションが行われました。

卵巣内膜症性嚢胞の診断・治療について、カンボジアでは、診断は超音波で行い(MRIは高価)、外科的治療は開腹、ホルモン療法としては安価で容易に入手可能な低用量ピルまたはデポプロベラ注射剤を処方するのが一般的なようです。嚢腫摘出術後のホルモン剤の選択方法・投与期間、癒着が強く核出困難であった場合の治療法、卵巣固定の必要性、悪性の判別など具体的な質問が多く挙がりました。

首都プノンペンの国立病院では、フランスや韓国で技術を学んできた医師らを中心に腹腔鏡下手術を行うケースも増えてきており、シェムリアップ州、コンポンチャム州、バットアンバン州でも腹腔鏡下手術ができるよう指導体制を整えていきたいということが示されました。また、講師より、技術認定制度やガイドラインも必要である点が強調し伝えられました。

(国立国際医療研究センター国際医療協力局 春山 怜)



～ ミニコラム ～

国立国際医療研究センター(NCGM)のサイトも是非ご覧ください

NCGMの国際協力局研修課フェロー田中彩医師が、本プロジェクトの現地での活動を視察しました。その際の記事がNCGMのサイトに掲載されておりますので、そちらも是非ご覧ください。

https://kyokuhp.ncgm.go.jp/activity/overseas/other_act/2022/20220909113521.html

2022年7月～8月 現地派遣スケジュール

7/23-8/13: NCGM 春山医師派遣

7/24-8/5 : JICA 沖縄特別嘱託/琉球大学客員研究員 竹内専門家、NCGM 神田助産師派遣